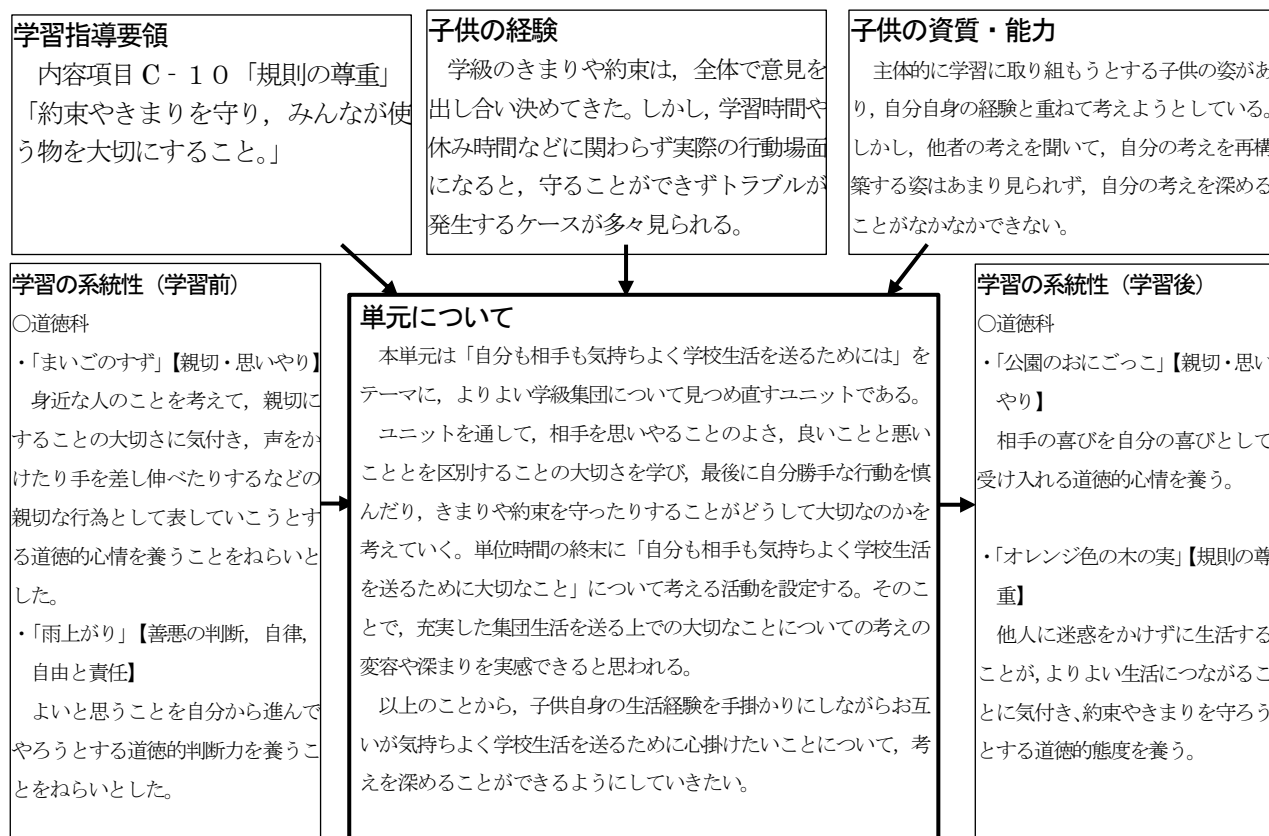


第2学年 道徳科学習指導案

場 所 2年2組教室
 児 童 男20名 女15名 計35名
 指導者 千葉 貴 大

- 1 単元名「自分も相手も気持ちよく学校生活を送るためには」(ユニット名)
 主題名「みんなのことを考えて」 教材名「黄色いベンチ」

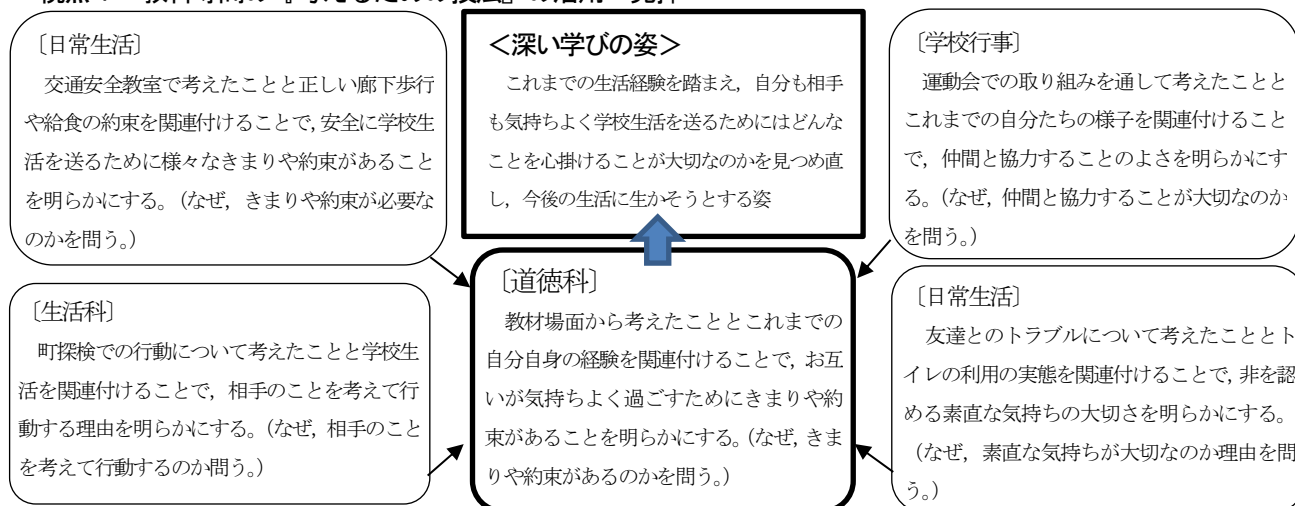
2 単元の指導構想



3 指導にあたって

そこで、『自己の生き方について考えを深める子供』を育むために、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

視点1 教科等間の『考えるための技法』の活用・発揮



視点2 深い学びの実現に向かう単元構成

「自分も相手も気持ちよく学校生活を送るためには」をテーマに、子供が自分も学級の仲間も気持ちよく日々 の生活を送るために大切なことを見つめ直し、今後の生活に生かすことができるように、次のように単元を構成する。

- ・ 自分も相手も気持ちよく学校生活を送るために様々な視点から考えることができるように、「親切、思いやり」「善悪の判断、自律、自由と責任」「規則の尊重」という異なる内容項目をつなぐ。
- ・ 自分勝手な行動によりトラブルが発生していたり、自分の思いを優先してしまい、学級全体で確認したきまりや約束を守ることができなかつたりする、という実態を意識して、今後の自分自身の生活を見つめ直すように促す。
- ・ 3時間のユニットを通して、自分も相手も気持ちよく学校生活を送るために大切なことを捉え直し、再構築できるように、毎回授業の終末で「自分も相手も気持ちよく学校生活を送るために大切なこと」を考える場面を設定し、ワークシートに記入を促す。

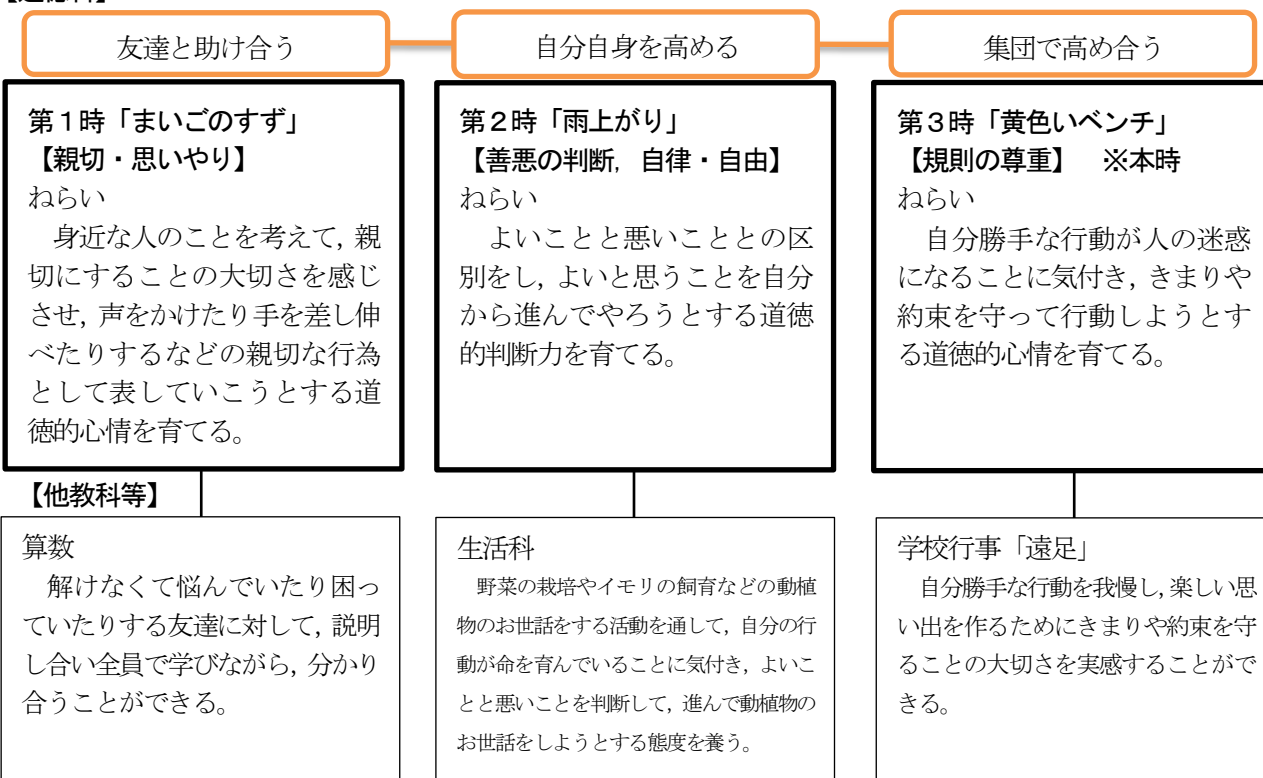
視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ 導入で、自分たちの身近なきまりや約束を想起し、自分事の問題として本時の学習を捉え、子供の考える必要感をもつことができるようにする。そのために、普段の自分はきまりや約束を守って生活することができるか振り返ることを促す。
- ・ 展開前段では、登場人物の行動と表情を関連付け、きまりや約束を守ること笑顔で楽しい時間につながることに気付くことができるように、「もし、男の子たちがきまりや約束を守っていたらどんな表情になっていたか」を問う。
- ・ 展開後段では、自分の考えの変容や今後の生き方への思いや願いの深まりを実感できるよう、自分も相手も気持ちよく学校生活を送るために心掛けたいことを考える場を設定する。

4 単元の指導計画 ユニットのテーマ「自分も相手も気持ちよく学校生活を送るためには」(本時3/3)

自己の生き方についての考えの深まり
 これまでの生活経験を踏まえた考えの交流を通して、お互いが気持ちよく学校生活を送るためにはどんなことを心掛けることが大切なのかを見つめ直し、今後の生活に生かそうとする姿

【道徳科】



5 本時の指導計画

(1) 目標 (活用する「考えるための技法」・関連付ける)

自分勝手な行動が人の迷惑になることに気付き、きまりや約束を守って行動しようという心情を育てる。

【道徳的心情】

(2) 見取りの視点

子供同士の考えの交流を通して、「きまりや約束を守ることの大切さ」についての捉えを広げたり深めたりしているか。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料
問題の把握 (8分)	<p>1 価値についての意識を高め、問題意識を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんなきまりや約束がありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 廊下を走ってはいけない。 ・ 家に帰ったら手洗いやうがいをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>きまりややくそくがあるのは、どうしてだろう。</p> </div> <p>2 「黄色いベンチ」のあらすじを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近なところにきまりや約束があふれていることを気付くことができるように、校内に掲示されているきまりや約束に関わる掲示物を紹介する。また、自分自身はそれらのきまりや約束を守ることができているか振り返ることを促し、子供のきまりや約束についての捉えを把握する。 ・ 子供が課題意識をもつことができるように、きまりや約束を守っていない様子を見かけたらどんな気持ちになるかを問う。 ・ きまりや約束に焦点を当てて考えることができるように、二人の男の子たちの行動に注目しながら範読を聞くように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ 挿絵
道徳的価値の追求・主体化 (27分)	<p>3 教材をもとに話し合い、価値について考える。</p> <p>(1) 男の子たちの公園での遊び方について、自分たちの生活と関連付けて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 男の子たちの遊び方でよくないことは何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 靴を履いたままベンチの上にいる。 ・ 立ったままブランコに乗っている。 ・ 靴を履いたままブランコに立っている。 <p>(2) 顔を見合わせた男の子たちの気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ はっとして顔を見合わせた二人はどんな顔をしていると思いますか。また、そう思う理由はなぜですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 泣きそうな顔。 ・ 困った顔。 ・ どうしようという顔。 ・ 自分たちのせいで、女の子の服が汚れてしまったから。 ・ 女の子やおばあさんに迷惑をかけてしまったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊んでいるときの楽しい気持ちを優先していたためにきまりや約束を守ることが出来なかった男の子たちの心情に気付くことができるように、遊んでいるときの表情を想像するように促す。また、本時の教材と自分の経験を重ねて考えることができるように、「自分自身にも同じような経験がないか」を問う。 ・ 自分たちのよくない行動に気付いた二人の男の子たちの気持ちに思いを馳せることができるように、表情を想像することを促す。また、想像した表情からどんな気持ちになっていると思うか問う。 ・ 二人の男の子がきまりを守らなかったために、女の子やおばあさんも困った表情を浮かべていることに気付くことができるように、女の子やおばあさんの表情を想像するように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表情カード

	<p>4 自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める。</p> <p>○ もし、ベンチが汚れていなければ女の子はどんな顔で遊んでいたでしょうか。また、男の子たちの顔はどうなっていたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女の子もおばあさんも笑顔だったと思う。 ・ 服が汚れることもないし、公園で楽しく遊ぶことができたから笑顔だと思う。 ・ 男の子たちも笑顔で遊んでいたと思う。 ・ 靴を脱がなかったから、困った顔になっているけど、ちゃんと脱いでいればずっと笑顔だったと思う。 	<p>手立て①</p> <p>きまりや約束を守ることは、安全に生活するだけでなく、お互いが気持ちよく過ごすことにもつながると考えを深めることができるように、次の手立てを講じる。</p> <p>① 「男の子がきまりを守っていたら、女の子やおばあさん、二人の男の子は、どんな表情になっていたか」を問う。</p> <p>② 二人の男の子が笑顔を見せている場面の比較を促し、「きまりを守らなかったときの笑顔と守ったときの笑顔は同じか、違うか」を問う。</p>	
<p>終末 (10分)</p>	<p>5 教師の説話を聞く。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ きまりや約束は、どうしてあるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが笑顔で過ごすため。 ・ けがをしないように過ごすため。 <p>○ 今までの自分は、どうだったでしょうか。また、これからどうしていきたいですか。</p> <p>○ 今日の学習を振り返りましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材と日常生活をつなげることができるよう、学校生活できまりや約束を守っている子供の様子を紹介し、称揚する。 ・ 教材場面から考えたことを自分の生活につなげることができるように、「なぜ、きまりや約束があるのか」を問う。 <p>手立て②</p> <p>本時を通しての自分の考えの変容や今後の生き方への思いの深まりを実感できるよう、自分も相手も気持ちよく学校生活を送るために大切なことを考える場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「これまでの自分はどうだったか。」「今日の学習で大切だと思ったこと。」「これからどう考えていくか。また、どう行動していくか。」「という3つの視点で振り返るように促す。 	<p>・ワークシート</p>